



〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3  
TEL / FAX 024-567-5322

Web <http://www.nposhalom.net>  
E-mail [info@nposhalom.net](mailto:info@nposhalom.net)

発行責任者：大竹静子

## 2016 ひまわりプロジェクト

### 栽培テキストも作成中

### 栽培協力者の募集始まる!!

### 募集始まる!!

今年の「ひまわりプロジェクト」が本格的に活動を開始しました。昨年までの栽培協力者へは、すでに栽培協力のための案内も発送されました。団体で取り組むところも年々増加しています。

栽培のためのポイント掲載した「地域間交流フォーラム」の報告書を種の発送時期に合わせて完成させるための編集作業も進められています。栽培上の苦労を皆さんと共有しながら、より実りを大きくするためのアドバイスがいっぱいです。団体内での学習会のテキスト等に活用できるものにしていくとスタッフ一同がんばっていますのでご期待ください。

今年の取組みをより活発なものにするためには、昨年の成果と苦労を充分検討し、苦労を楽しみに変えていくことが大事です。昨年は、全国で二五〇の団体がひまわりプロジェクトに参加されました。福島に戻った種は压榨搾りで丁寧に搾られ、ひまわり油「みんなの手」として製品化されます。日本中の優しさと思いが凝縮された愛の雫です。震災以降、福島支援を続けてきた北海道の「なおこ

バンド」さんによってプロジェクトのイメージソング「ひまわり」も作られました。団体の皆さんには、「ひまわり感謝祭」の終了報告とともに送らせていただきました。これまでも、ひまわりプロジェクト関連の情報発信の充実を図ってきましたが、二〇一六年の栽培者募集に当たり、その概要について紹介しておきたいと思えます。

① 機関紙「シャロームネットワーク」  
会員向けの機関紙で、シャロームの活動全般について紹介している。会員には、紙媒体で郵送される。通常二十日発行。発行後シャロームのホームページにも掲載される。

② 機関紙「ひまわり通信」  
ひまわり栽培者向けに、季節ごとの栽培上のアドバイスや各地の栽培状況の報告を掲載し発行している。ホームページに掲載すると同時に希望者には紙媒体での郵送も行っている。

③ シャロームホームページ  
トップページに「ひまわりプロジェクト」の専用ページと「ひまわりブログ」のバナーが用意されています。障がい者施設「憩」のパソコン班

が日々ブログを更新しています。投稿も可能なので身近な情報をお寄せください。また、ひまわり感謝祭の報告とプロジェクトを紹介する動画も「ひまわり」の曲に載せて見ることが出来ます。プロジェクトを紹介する際に利用していただきたいと思えます。

シャロームの活動の基本は、直接的に顔の見える関係を繋いでいくことにあります。これにより築かれた人間関係を補完していくものが、さまざまな情報媒体であると考えています。活動範囲が広がっても、この考え方は変わりません。可能な限り現地を訪問し交流を深めたいと思えます。ひまわり大使の派遣も継続して行います。

ひまわりを通して福島と関わり、交流を通して福島への理解を深めてもらえればと思えます。福島の課題は、全国で抱える地域の課題でもあり、福島では原発事故によりこの問題が急激に顕在化してきたとも言えます。

ひまわりに関わることで子どもたちには、生命の営みと助け合って育てることの楽しさを教えています。親子や先生、地域の皆さんがひまわりを通して一つにまとまっていきます。地域が一つになつて行く共同作業から地域再生の取組みが始まります。

「ひまわりプロジェクト」がひまわりの根が大地に伸びて行くように、全国各地に地域再生のための草の根となり深

### 父の一周忌の法要が行われた。

父の一周忌の法要が行われた。昨年の父の死から一年が経過した。九十年の人生を終えた父の生涯。残された母のもとに、子、孫、ひ孫と三代が集まる。約三十名の大所帯である。二人が歩んできた人生の成果が、約六十年の月日を経て十五倍にまで広がっている。

戦地を経験し、戦後を必死に生き抜いてきた父、歴史の流れに翻弄されながらも家族を守り続け、現在の私たちにそのバトンを引き継いで行った父、何気ない日常の繰り返しである日々の暮らしが終符を打つ。始まりには必ず終符を迎える。今を精一杯生きなければ。

子どもを育て平凡な生活を営み続けることで、次の世代に繋いでいく。核家族化の中で進化した少子高齢化社会、それは、この当たり前の人間の営みが繋がらない社会、子どもを持たない老人に孤独と貧困の影が漂う社会。親子、孫、三世代が当たり前暮らし家族と日々の何気ない平安を大切にしなければならぬと改めて思つた。(T.O.)

く根ついでいくことを願いつつ、皆さんとともに今年も一年間活動を続けて行きたいと思えます。(T.O.)